

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4074500200
法人名	社会福祉法人 南十字福祉会
事業所名	グループホーム福間 2ユニット名(本館・新館)
所在地	福岡県福津市上西郷738番地
自己評価作成日	平成25年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成25年5月31日	評価結果確定日	平成25年8月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・「その人らしく」を尊重して、一人ひとりに合ったケアを実践する為に、G・H福間独自の「認知症の人の為のケアマネジメントセンター方式」を導入しました。</p> <p>・ご家族や地域の方の協力を得ながら皆と一緒に笑い、毎日楽しく過ごして頂けるように支援しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>個別支援へのアプローチを追求し、センター方式の活用に取り組んでいる。入居者の方を担当する職員を複数配置し、勤務調整により毎日担当職員が出動している体制をとり、日常の変化に向き合い、家族との情報共有や連携も図りやすい。年に4回、家族の協力を得て盛況に開催される家族会等を通じて、コミュニケーションの深まりとともに、忌憚のない意見交換を可能にし、認知症ケアにおける関係機能の活用を重要視しながら、家族とともに個別の暮らしに向き合っている。また、隣接地の畑で作物を育てる農家の方より声かけを頂き、新鮮な野菜を頂いたり、調理法を伝授してもらう等、地域との関係性も広がりを見せている。家族や地域、かかりつけ医や隣接する同法人専門職との密な連携を図り、その方にとっての「今」をサポートしていくために、ケアマネジメントを行なっている。開放的なゆとりある広さの生活空間と、豊かな周辺環境の中で、地域密着型サービスとしての本質的な質の向上に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で作り上げた理念を職務に当たる際の心構えとし“笑顔の我が家”の理念に近づいてきている。	朝夕の申し送り時に、「笑顔の我が家～地域と共に生き楽しくその人らしく～」の理念に添った支援が行われているか、振り返る機会を持っている。また、センター方式の活用を通じた取り組みからも、実践に向けた明確な取り組みが確認できる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	建物の周りには民家が少ないが、農家の方から作物を頂いたり料理方法を教えて貰ったりしている。 ボランティアの来訪も多い。	隣接地の畑で作物を育てている農家の方より声かけを頂き、新鮮な野菜が届けられたり、調理法を教えてもらっている。地域の協力を得て行われるバザーの実施や、バーベキュー大会、花火大会の開催等、民家が少ない周辺環境の中で、地域との交流の場面を大切にしている。地域のスーパーへは、食材や衣類の購入に出かけ、顔なじみの関係となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症セーフティネットワーク「蓮華草」に参加し認知症サポーター養成講座を小中学校や消防団等で行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を行い、活動状況の報告や取り組みに関する意見交換を行なっている。	家族代表、区長、民生委員、市職員、法人理事長等の参加により、運営推進会議は定期開催されている。情報共有や活発な意見交換が行われ、サービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市担当者の出席がある。福津市認知症やセーフティネットワーク「蓮華草」を通じて市職員との連携を行なっている	研修計画の中に位置付け、毎年2回、市職員を講師とする研修が実施されており、顔の見える関係性の中で、常日頃から連携を深め、協力関係を築くよう取り組んでいる。福津市地域密着型サービス事業所連絡会や認知症セーフティネットワーク「蓮華草」の勉強会を通じて、行政担当者との情報共有や意見交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみ行なっている 母体施設が行なっている身体拘束防止委員会への出席や勉強会の中でも議題に取り上げている	徘徊という認識ではなく、意思表示であると受け止め、個別の距離感を保ち見守りを行い、日中、玄関や中庭の出入り口の施錠は行っていない。医療との密な連携を図り、薬による抑制や副反応への意識も高い。法人として、身体拘束防止委員会が設置されており、職員が参加し、意識を高めている。	

福岡県 グループホーム福岡

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市の職員に講師を依頼し、勉強会を実施している。職員間でも注意を払い防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回外部の講師を依頼し勉強会にて学んでいる 現在成年後見人制度を1名の方が活用している	毎年、福津市担当者を講師として、成年後見制度に関する研修が継続して実施されている。運営推進会議にて報告することで情報共有を図っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者本人やご家族に対し個別に説明を行い署名捺印を頂いている 重要なお知らせは、年3～4回の家族会等で説明を行なう予定である		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に4回、家族会を行い議事録を閲覧可能にしている。また取り組みの1つに担当制(2～3名)にて、徹底したご家族との連絡などを取り行なっている。	敬老会やクリスマス会、鍋パーティー等の家族参加行事は、料理作り等に家族の協力も得ながら盛況に開催され、その後、家族会を実施している。入居者、家族、職員間のコミュニケーションの深まりと信頼関係の構築は、忌憚のない意見交換を可能としている。日常的に家族の訪問が多く、また、各入居者の方に複数の職員が担当する取り組みから、常に密な連携が可能である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼、終礼、又はミニミーティングに時間を見つけ、出来るだけ参加し、意見・提案を聞く様にしている。	日々の朝礼や終礼は、単なる情報共有のみに終わらず、ミニミーティングも含め、意見や提案が活発に出されている。また、課題は積極的に法人へ提案され、運営に反映されている。自己評価の作成には、全職員が関わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心を持って働けるよう給与や手当を上げる等、実績・勤務状況に応じて行なっている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	法人としての募集採用であるが、管理者も面談を行なっている 公休や有給休暇の取得等にはできるだけ配慮しているが、職員数の減少もあり希望通りに行かないことがある	法人としての採用となり、ホーム長も面接に加わり、理念を共有できる適正を判断している。業務改善に積極的に取り組み、働きやすい職場環境づくりに積極的に取り組んでいる。また、個別のスキルアップの機会の確保に配慮し、研修参加や資格取得等をサポートしている。	

福岡県 グループホーム福岡

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	講師を招いて人権擁護や認知症に関する勉強会を開いたり、研修会に参加する事を行っている。	毎年、福津市職員を講師とする人権擁護に関する研修が実施されている。朝夕の申し送りやミーティングにおいても、振り返る機会を持っている。ストレスマネジメントに関する外部研修にも参加している	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体施設からの職員の異動や母体施設への応援・研修を行い職員の質の向上に努めている 外部研修や勉強会にて学ぶ機会の確保に努めている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症セーフティネットワーク“蓮華草”のメンバーとなり認知症サポーター講座に数回参加したが、業務の都合で思うように参加出来なかった		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス提供前にご本人とゆっくり話をすることで思いや困っている事を聴くことを行ったり、病院からの入居の場合、退院時のカンファレンス等にも参加している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを聞き、心情に配慮したお話をしよう職員全員が気をつけている 困っていることや不安なことをしっかり聞くようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントやセンター方式のシートをご家族のわかる範囲で記入して頂き、ご本人ご家族の意向に沿って無理なく柔軟な支援を行なうように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活全般(洗濯物干し・たたみ・掃除)、畑での収穫作業を一緒に行い、達成感を喜びとして頂けるように努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や外泊の支援や施設の手入れ、又はイベントの準備などを頼める関係である 毎週末に入居者の部屋にお嬢さんが泊まられたり、昼食・夕食を利用者と共に摂られる家族も増えている。		

福岡県 グループホーム福岡

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご親戚の方や知人の方と過ごす時間の支援を行なっている なじみの民生委員の方や地区の方の訪問もある。	家族と共にセンター方式の活用に取り組み、馴染みの関係性の把握に努めている。家族が来訪する機会も多く、誕生日には、家族と共に居室でお祝いを行っている。家族の宿泊室が設けられている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本館新館の区別なくカラオケ・レク軽作業にて交流を図り閉じ籠り防止にも努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後であっても相談や支援を行なっている様に努め、ご家族より訃報の知らせが入った際は葬儀への参列も行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を導入し生活歴やライフスタイルの把握を行い、個別支援の充実に努めている モニタリング・カンファレンスを介護計画作成に活かしていくことを目指している。	家族との連携も活かしながら、センター方式の導入に取り組み、入居者の方に複数の担当職員が配置され、ケアマネージャーが集約している。また、新たな気づきを積み重ね、情報を共有している。この取り組みから、個別の「思い」や「暮らし」に向き合い、様々なアプローチへと結び付けようとしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のシートへの記入をご家族の協力のもとに行い、生活歴などの把握を行なっている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送りや夕方の終礼で気づいた事の申し送りを行い、ご本人の状態を把握するようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式シートや毎月のモニタリングへの書き込みを行い、カンファレンスにて話し合い、介護計画作成に活かすように努めている	随時更新されるセンター方式を活用したアセスメントや、毎月のモニタリングをもとにカンファレンスにて協議を行い、介護計画を作成している。複数の担当者を配置することで、毎日、担当者が出勤している状況にある。また、幅広い視点からの気づきを集約し、日々の関わりに結び付けている。今年度の事業計画として、個別の介護計画を明記している。	

福岡県 グループホーム福岡

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	当ホーム独自の介護計画書を活かして個別ケアを目指している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	両館一緒に、美味しい食事を提供する(相性考慮)。レクの軽作業、個別サークル(生花・茶道・貼り絵)などの活動に参加し、又個別ショッピングを支援する。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方によるレクレーションや訪問歯科による診療、民生委員や消防の方の訪問など協力し支えあう支援を実施している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族が希望された医療機関や入居前からのかかりつけ医に受診し、情報交換ができるように支援している。	入居時に、かかりつけ医について確認し、意向を尊重している。医師との密な連携を図り、日常の状態を伝え、入居者本位の検討を行い、適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は現在いないが、母体施設の医師や看護師の協力を得ている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、病院関係者との情報交換を行なう事やカンファレンスに参加したり、リハビリの状況・食事の様子を把握を行い、協働に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期に向けた方針を説明している 家族会などで折にふれて話し合いを持つ事で、できる事を説明していく予定である	入居時に、重度化した場合や終末期の在り方について、方針の説明や意向確認を行っている。また、日常の関わりやセンター方式への記載を通じて、意向の把握を続けている。状況の変化に伴い、家族や医師、職員との話し合いを重ねながら、方針を共有している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備し全職員への周知を行なっている。勉強会として消防士による心肺蘇生法や応急手当の訓練を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練を入居者も含め年2回実施している 本年度は昨年度の長崎GH火災もあり、年3回に増やし、夜間想定を2回行っている。	昼夜を想定した避難訓練を年3回実施し、訓練後には課題検討を行なっている。入居者も参加し、消防署の指導や隣接する同法人施設との連携も確認し、災害時に備えている。地域消防団への認知症サポーター養成講座も開催されており、今後の実効的な連携が期待される。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の思いや人格を尊重し丁寧であたかみのある対応を心掛けている 馴れ合い過ぎた声掛けには、スタッフ間で注意が出来る様に努めている	アセスメント様式の充実を図り、本人の理解と尊重に努め、ライフスタイルの尊重や自尊心の回復に向けたアプローチを行っている。申し送りやカンファレンスにおいて、日々の対応や声かけについて、振り返る機会を持っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出やレク活動・行事などでもご本人のご意向を尋ね、自己決定できるように働きかけを行なっている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の体調や夜間の睡眠状態により希望通りとはいかないが、食事の場所や入浴の日など希望に沿った対応をしている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容の利用ができる。自分でお化粧や顔のお手入れをされる利用者も居られる		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のレベルや希望に合わせた席にて食事をして頂いている。晩酌をされる利用者も居られる	買い物から調理までホームで行っている。食材の購入時には入居者も同行し、季節を感じてもらい良い機会となっている。また、引き膳等に自発的な関わりが見られた。口腔機能の維持、活用に向けたアプローチも行われており、現在、すべての方が普通食の摂取が可能であり、取り組みの成果が確認できる。誕生日は個別に開催され、刺身等がメニューに加わり、祝い膳が提供される。家族や医師とも相談しながら、晩酌の継続を支援している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせ食べ易い形状や硬さに対応している 食事・水分摂取量のチェックを行っている。		

福岡県 グループホーム福岡

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けや介助を行っている 訪問歯科を利用している利用者もいる 口腔ケアチェック表の記入を行なっている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の行動や様子からトイレへの誘導などを行い、なるべく失敗を減らしトイレでの排泄ができるように支援している 排泄チェック表の活用もしている	各居室にトイレが設置されており、共用空間にも、2ユニットで10か所の設備がある。必要な支援を見極めながら、さりげない関わりが行われており、自立の支援やプライバシーへの配慮となっている。 下肢筋力低下予防の機能訓練が日常的に行われている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表の活用を行なっている。水分補給や食事の工夫や運動への参加の声掛けを行い、便秘予防に努めている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回(月・水・金)を入浴日をしているが、入居者の希望やタイミングに合わせて、ゆっくり楽しく入浴が出来る様に湯温の調節等も行なっている	ユニットにより、大浴場や個浴が設置され、入居者の状況に合わせて利用している。週3回の基本的な入浴スケジュールはあるが、その日の状況や希望にあわせて臨機応変に支援を行っている。菖蒲湯等で季節感を楽しんだり、入浴剤の使用等にてゆっくりとした入浴支援が行われている。本館には、居室にシャワー設備が設けられている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースで一日を過ごすことが出来る、休息は自由に出来る。 日中はなるべく活動して頂き、生活リズムが整うように支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のセットはセットとチェックを2人で行い、ミスのない服薬支援に努めている また服用時にも確認を行っている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・洗濯物干し・洗濯物たたみ、野菜の収穫やカラオケ・ゲーム・作品作りなど個人が望まれることの支援を努めている 個別のショッピングにも対応している		

福岡県 グループホーム福岡

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望に応じて外出することができるようにしている。住んでいた家まで行ったり、他施設へ入居されているご主人の所へ行くなど支援を行なっている	個別や少人数にて、買い物や外出に出かける機会が多い。ホームの食材購入時の同行は、入居者の方々にとっても楽しみな外出となっている。広大な敷地内や周囲も緑が多く、季節の変化を感じながら気軽に外気浴を行える環境である。藤や菖蒲等の花見等、家族と共に楽しむ機会も多い。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者は預かり金を出納帳にて管理しており、買い物や外出先での飲食に使えるようにしている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ電話したいとの希望があれば、電話をすることの支援をしている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、ゆったりとした広さがあり、縁側からは中庭の花などが楽しめる	広々とした共用空間は、当事業所の大きな特徴でもある。広い縁側には椅子やソファが配置され、中庭の景色を眺めながら、くつろぐことができる。2ユニットあわせて10箇所のトイレや、シャワー室が設備される家族宿泊室、リハビリルーム等、ゆとりある生活環境を有している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本館・新館の区別なく、入居者はどの館でも過ごすことができるようにしている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等を持って来て頂いている。ご仏壇を持って来られている入居者もいる	トイレや洗面台が設けられた各居室は、ゆとりある広さが確保され、ユニットによっては、シャワールームも設けられている。使い慣れた家具が持ち込まれていたり、趣味の鉢植えが置かれていたり、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で出来る事は時間がかかっても行なって頂き、居室前に大きく名札を張ったり「矢印」を貼ったりしている		